



第 1 日

国 語

(9 : 30 ~ 10 : 20)

注 意

- 1 検査開始のチャイムがなるまで開いてはいけません。
- 2 問題用紙の1ページから13ページに、問題が一から四まであります。
これとは別に解答用紙が1枚あります。
- 3 問題用紙と解答用紙に受検番号を書きなさい。
- 4 答えはすべて解答用紙に記入しなさい。

| | |
|------|-----|
| 受検番号 | 第 番 |
|------|-----|

一 次の文章を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

カーテンをあけると一面の雪景色だ。まだふりしきつてはいる粉雪を寝

起きの目で夢のつづきのようにぼんやり見ていると、急に何か思いつい

たように邦子の顔はかがやきだした。そうだ、雪の朝、それも可成の

降りに、白鳥を乗りまわしたいというのが宿望だつたのだ。N^{注1}乗馬クラブ

では純白の馬は「白鳥」一頭きりだつた。早くかけつけないと、偶然

邦子とおんなじ考えの会員がいて、先取りされてしまう懼れがある。朝

おきるときは今日は何をしでかすかわからないという不安を感じるほど

の健康さで、今日に限らずベッドから下りるとき文字どおり「床を蹴つ

て」起きるならわしながら、今朝はとりわけそうだつた。顔を洗うま

えから外出着に着かえてしまつた。白いウールの乗馬服、白い乗馬袴^{注2}、

長靴だけは白というわけに行かなかつたが、手袋まで白キッドの本当は

乗馬用ではない優雅な指のながいのをはめてみた。寝起きの体がぼてつ

ているせいか手袋の留め金が手首に快い冷たさだ。鏡の前に立つと白ず

くめのなかから、はやくも馬を駆つているかのような上気した頬が薔薇^{注3}

いろを際立たせている。

※1 こうして一時間あまりつづいた夢心地がクラブの休憩室へ入つたとたんに崩れてしまつた。その入り口の黒板に、

「白鳥」——高原

と、ぶつきらぼうな白墨の字があつて、会員なのだが一度も口をきいたことのないむつり屋の青年が、(それが高原ということも邦子は今は

じめて知つたのだが)、白い乗馬服の、むつり屋らしい頑丈な背を向

れていることがわかるのだが。

A 同じひろさの馬場が二つつながつて、その通路を中心には双方の馬場に亘つて8字形の運動も出来る仕組みになつてゐるのに、高原はけつして邦子の方の馬場へ入つて来なかつた。雪を透かして彼の栗毛の馬は妙に艶めかしい美しさだ。習いたてらしいピアッフェを練習している一瞬の跳躍の姿勢が銅像の馬のような筋肉の躍動にあふれている。その馬の上から時々ちらとこちらを見る目が、雪のなかでもえている一点の火のようだつた。

B どうしてもこちらの馬場へ入つて来ない高原を感じると、邦子は一人でぐるぐるまわっている馬場のひろさが、かえつて高原の投げた輪のなかをどうごめぐりしているようなふしきな狭さに感じられて、時には彼の厚い掌^{注4}の上をかけめぐつてゐるにすぎないのではないかと、妙な空想がわくのさえもどかしい。それを又、高原の馬をゆづられた負け目だと感じることも彼女の朝の朗らかさを台無しにした。

三十分ほど乗りまわして邦子は急に思いついて、二つの馬場の堺^{注5}で馬を下りた。雪の上へとび下りると長靴の中で冷え切つた足が釘^{注6}をふみ

けて、ストーヴにあたりながら、鞭^{注7}でかるくストーヴの胴を叩いていた。

邦子はその背中から云いしれない意地悪さを自分勝手に感じとつて、後をも見ずに休憩室を出て行こうとした。急激な回れ右に鳴った拍車^{注8}の音がいかにも感情的だつたのでそれでやつと気づいたらしく高原はふりかえり、「あ、堀田さん。」柄に似合わぬ鋭敏な声でよびかけた。名前を知られていようとは思わなかつたので氣をのまれて振り向いた邦子の、白ズくめの服装を無遠慮にじつと見据えると、青年は、「ははあん。」と謂つた大人びた納得の微笑をうかべて、黒板の方へ歩き出しながら、

「――

邦子は思わず「ああよかつた。」と言いたげな御先走りな微笑を見せてしまつて、気がついて赤くなつた。さつきの高原の大人びた微笑には生意気なところがなかつた、と急に好意的なヒヒヨウも心にうかんで来て、それでも一応、「あら、そんな……、あたくし後からまいりましたのに。」——青年にしても、こんなに早く来て黒板にでかでかと書いておいたのは、今朝起きがけに邦子が危惧したとおり、偶然同じ宿望を抱いていたからにちがいないのだ。

しかし高原はむつり屋らしい背をみせたまま、黙つて黒板消しで「白鳥」を消して、他の馬に書きかえようとしている。その好意から邦子自身がまるで除外されているようなそつけなさなので、何か胸の軽くなるおかしさで窓のほうをながめやると、馬場いちめんにふりしきる粉雪のなかに、かこいの柵の青ペンキばかりがあざやかだ。※2

引き出されたときは雪におびえて、白鳥は鼻孔を怒らして、雪よりも

ぬいたような痛みをつき上げた。その痛みにしかめた顔を上げたところに何事かとヨリつてきた馬上のあの烈^{注9}い視線があつたので、彼女はふしきな口惜しさで顔をますます硬ばらせた。

「あたくし、もう帰りますから『白鳥』にお乗りになりません? その馬はあたくしが厩舎^{注10}へ引いてまいりますわ。」と切り口上で言つた。「僕はそんなに『白鳥』に乗りたいわけじゃありません。」「でも……。」と邦子は高原の感情を手繕り切れない腹立たしさから怒つた顔つくりになりかける自分が何か痛快な気もして、「この馬まだ疲れていないのです。引いてかえれば他の人が乗るでしようけれど、よろしいの?」「どうしても僕が乗らないと、その馬、承知しませんか?」「あら、しそうつていらつしやるわ。」

C 見る間に高原は荒っぽい下り方をして雪を踏み散らして邦子の前に立つた。そして吐息をしてスキー帽を左手でずらし上げると、額際から湯気が立つてゐる。雪の音がきこえるような沈黙のなかで顔を見合はしていふると、高原はじめて額から流れる汗に気づいたようにハンカチをつかみ出して、あらぬ方へ目をそらしたまま、「じゃ、馬を交代しましょう。今度は同じ馬場で御一緒に乗りまわしませんか。」

D ——ふと高原の馬もこの白キッドの手袋の上をさつきからどうどうめぐりしていたのだと邦子は今気がついて、やさしく手綱を高原の手にまかせながら、自分の手から何か大事なものを持たずつたよう

な甘い虚しさを感じた。

(二島由紀夫 「白鳥」による。)

(注1) 乗馬クラブ ≡ 乗馬を目的とした会員制の組織及びその施設。

(注2) 乗馬袴 ≡ 乗馬用のズボン。

(注3) キッド ≡ 革材料の一種。

(注4) 拍車 ≡ 乗馬靴のかかとに取り付けた金具。

(注5) ピアッフェ ≡ 馬術の一つ。

(注6) 厥舎 ≡ 馬を飼う小屋。

(注7) 切り口上 ≡ 形式的で無愛想な口調。

(注8) しょつてている ≡ うぬぼれている。

1 ①～④について、漢字には読みを書き、カタカナにはそれに当たる漢字を書きなさい。

2 1 邦子の顔はかがやきだしたとあるが、次の文は、邦子がこのよう

な表情になつた理由について述べたものです。空欄Iに当てはまる適

切な表現を、二十字以内で書きなさい。

一面の雪景色の朝、雪のふりしきる中で（　　I　）と思つた

から。

3 空欄IIの部分の発言では、邦子にどのようなことが伝えられたと考えられますか。次のア～エの中から最も適切なものを選び、その記号を書きなさい。

ア 邦子の服装が優雅であること。

イ 高原が白以外の乗馬服に着替えること。

ウ 高原が邦子に白鳥を譲ること。

エ 邦子が乗れる馬は白鳥以外にあること。

4 空欄IIIから空欄IVまでの部分において、邦子はどのような人物として描かれていると考えられますか。本文の内容を根拠に挙げ、「……ところや、……ところから、……人物として描かれていると考えられる。」という形式によつて、あなたの考えを書きなさい。

5 段落Dの描写について、国語の時間に生徒が話し合いをしました。

次の【生徒の会話】はそのときのものです。空欄IIに当てはまる適切な表現を、二十五字以内で書きなさい。また、空欄IIIに当てはまる最も適切な表現を、あとのア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

【生徒の会話】

田中… 邦子は「高原の馬もこの白キッドの手袋の上をさつきからどうどうめぐりしていた」とに気がついているけれど、これはどういうことに気がついたのかな。

毛利… そうねえ。この描写は高原のことを比喩的に述べたものよね。これと似た描写が、段落Bにあるから、そこが手掛かりになると読めるからね。

中本… なるほど。「どうどうめぐり」という描写はどちらの段落にもあるし、「彼の厚い掌」は「白キッドの手袋」と対応していると読めるわ。

毛利… 段落Bで邦子が感じている「どうどうめぐり」や「厚い掌の上をかけめぐっているにすぎない」というのが、どのように感じている状態のことなのかということを読み取つて、高原もそれと似たような状態だったと考えたらよさそうね。

田中… そう考える…分かった！ 「高原の馬もこの白キッドの手袋の上をさつきからどうどうめぐりしていた」というのは、高原も邦子のように、（　　II　　）という状態だけことを表しているのだと思うよ。

中本… 確かにその状態は同じだと思うけれど、「どうどうめぐり」していった時の思いは、邦子と違うと思うよ。

毛利… どういうこと？

中本… 段落Aの、邦子を見る高原の目の描写や、段落Cの高原の言動などを踏まえると、高原が（ III ）いることが読み取れるよね。

田中… そうか。そう考えると、段落Dで邦子は、高原が（ III ）いたために、自分と同じような状態になつていたことに気がついたのだといえるね。

ア 邦子を軽蔑して イ 邦子に好意を抱いて
ウ 邦子を羨んで エ 邦子に敵意を抱いて

二 次の文章を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

自分の心の中の辞書にたくさんある字や語をもつてさえいれば、文章がわかるのでしょうか。次の文章を読んでみてください。

彼は練習が大切だと、ずっと思ってきた。努力だけで成功できるわけではないし、天性の力も必要かもしれない。しかし、今の位置を保つには、努力は必要不可欠である。

彼はすっかり手になじんだものを取り出した。それは、単なる道具ではなく、彼にとって分身のようなものだった。ゆるやかな曲線、しっかりと張られた糸。これがデビューしてから、彼をずっと支えてきたのだ。

おそらく読めない字や知らない単語はないでしょう。でも何をいつているのかよくわからない、変な文章だと思った人もいるでしょう。なぜよくわからないと感じたのでしょうか。文章中の「彼」ってだれだろう、「手になじんだもの」「ゆるやかな曲線、しっかりと張られた糸をもつこ・れ」とは何のことだろうと思つたのではないでしようか。それはこの文章で何が話題にされているのかが、この文章だけではわからないからです。文章を読むときには文字や単語個々の意味がわかることはとても大切ですが、¹それだけで文章がわかるとは限らないのです。

²読むのが苦手な人に限つて、わかりやすい文章というと、むずかしい漢字や知らない単語がないことや、文や文章全体が短いといった形式的なことをすぐ思い浮かべるようです。でも、それだけで文章がわかりやすくなるわけではないのです。

A

ただし、たとえ「ウインブルドン」といわれても、それが全英テニス選手権大会の開催で有名なロンドン南部の地名であることを知らない人には、この題はまったく役に立たないでしよう。まず第一に、ウインブルドンやライブハウスが何で、どのような場所やできごとをさすのかについて知識をもつてていること、そして第二にその人が、そのもつてている知識を読むときに使うことができること、この二つの条件がそろつて初めて、文章を理解できるわけです。ライブハウスについて知識をもつていても、題として与えられないとその知識を使うことができません。

「文章を読む」とは、「文字を見ることを通して情報が頭の中に流れ込み、一方的に入ってくること」と思っている人がいるかもしれません。しかし、この例からもわかるように、そうではありません。入ってくる情報について自分がすでにもつてている知識を使いながら、重要な情報とそうでない情報を取捨選択し、情報ともつてている知識を関連させて文章を理解しています。双方の流れ、もつてている知識と入ってくる情報のやりとりによって、³書かれている文章の内容世界を読み手の心の中にづくり上げていく過程といえます。ですから、読み手側が手もちの知識をどのように使うことができるかが重要なのです。いくら知識をもっていても、どの知識を使つたらよいのかがわかるようになつていなければ使えません。知識が使えるためには、入つてくる情報が何について述べたものかがわからなければならぬわけです。

(秋田喜代美 「読む心・書く心」による。)

(注) ライブハウス ≪ ポピュラー音楽の生演奏を聴かせる店。

① 「手になじんだもの」はギターとかバイオリンとか楽器ではないかと想像した人もいるでしょう。また、テニスやバドミントンなど、ラケットのことだと思つた人もいるかもしれません。このように文章中に書かれていないことを想像することを心理学では推論と呼びます。推論できた人はこの文章がわかつたと思つたでしよう。また推論できずに読んだ人は、よくわからないと感じたままでしょう。なかには、「なんでこんなわかりにくい文章を読まなければいけないの?」と思つた人もいるかもしれません。

「文章がわかる」とはどのような心のしくみによるのかを考えてもらうために、わかりにくいこの文章をあえて読む体験をしていただきました。これは西林克彦さんという教育心理学者が作成した文章を筆者が一部修正して紹介させてもらつたものです。西林さんは、この文章を大学生に読んでもらうときに半数の人には「ウインブルドン」という題を与え、残り半数の人には「ライブハウス」という題を与えて読んでもらうという実験をしています。文章を読んでもらつた後で、「彼が取り出したものは何ですか?」と質問します。まあ大学生はどう答えたでしょうか。文章に忠実に答えるならば「すっかり手になじんだもの」とか「ゆるやかな曲線としっかりと張られた糸をもつ道具」が答えになるわけです。しかしそのようく述べた人は少なく、「ウインブルドン」という題で読んだ人の七十七パーセントはラケット、「ライブハウス」という題で読んだ人の六十パーセントはギターと答えました。これは、同じ文章でも、読み手がどんな知識を使って読むかによって文章の理解の仕方が違つてくることを示しています。

1 ① 想像と熟語の構成が同じものを、次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 昼夜 イ 民営 ウ 国名 エ 離陸

2 ① それはどのようなことを指していますか。二十字以内で書きなさい。

3 ② 読むのが苦手な人に限つて、わかりやすい文章というと、むずかしい漢字や知らない単語がないことや、文や文章全体が短いといった形式的なことをすぐ思い浮かべるようです。とあるが、この一文では、論を進める上で工夫により、あえて筆者の主張とは異なる考え方につれられていると考えられます。これと同様の工夫により、あえて筆者の主張とは異なる考え方につれられている一文を、段落A以降から抜き出し、その始めの五字を書きなさい。

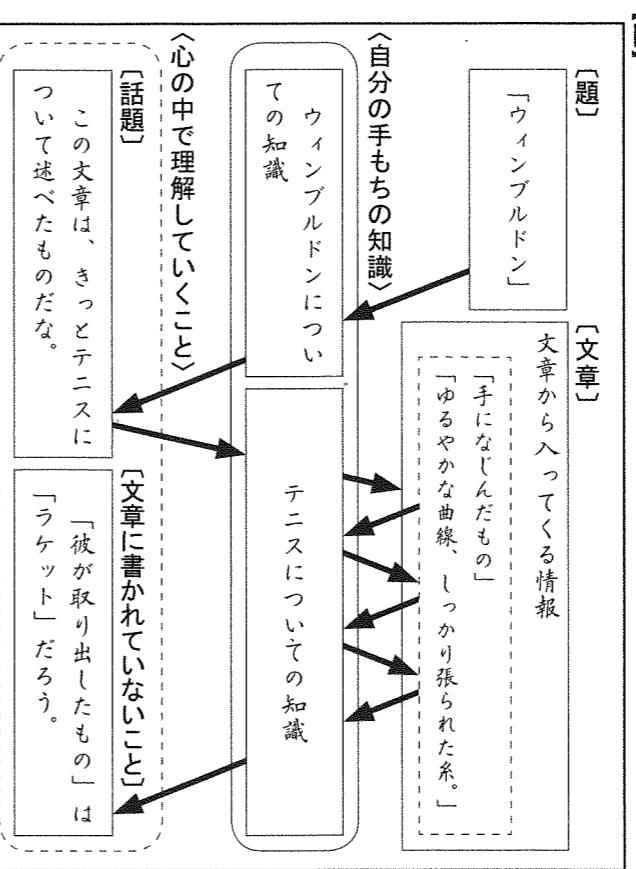
4 書かれている文章の内容世界を読み手の心の中にづくり上げてい

く過程とあるが、次の【図】は、国語の時間にa班が、この過程に

ついて筆者の主張を踏まえ、本文中に挙げられている例（「ウインブルドン」という題で読み、「彼が取り出したもの」を「ラケット」と理解する過程）の場合を当てはめてまとめたものです。また、【コメ

ント】は、a班が【図】を他の班に示してこの過程を説明したときに、他の班から出されたコメントを記録したものです。これらを読んで、あとの(1)・(2)に答えなさい。

【図】



問題は、次のページに続きます。

3

【コメント】

○ b班より

「テニスについての知識」と「文章から入ってくる情報」との間には、何度も往復する矢印があるが、これはどのようなことを示しているのか。

○ c班より

「文章に書かれていないこと」まで理解する上で、「題」が重要な役割をもっていることが分かった。

【a班の回答】

(1) a班では、【コメント】中のb班の質問に対し、次の【a班の回答】のように回答をすることにしました。空欄I・IIに当てはまる適切な表現を、それぞれ十字以内で書きなさい。

(2) 【コメント】中のc班のコメントのように、題が重要な役割をもつてているといえるのはなぜですか。本文における筆者の主張を踏まえ、「推論」という語を用いて書きなさい。

三 次の文章を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

(注1) も留めて、その後歌を詠み給ひけり。

(「沙石集」による。)

恵心僧都は、修学のほか他事なく、道心者にて、狂言綺語の徒事

学問を修める者

仏教を深く信仰する者

無駄なこと

を憎まれけり。弟子の児の中に、朝夕心を澄まして、和歌をのみ詠ずる

ありけり。「児どもは、学問などすること、さるべき事なれ、この児、

いた

いつも

ありけり。【児どもは、学問などすること、さるべき事なれ、この児、

いた】

歌をのみ好みすべし。¹ 所詮なきものなり。あれ体の者あれば、余の児ど

も見学び、不用なるに、明日里へ遣るべし。』と、同宿によくよく申し

怠けるので

和歌を詠んでばかりいる者

どうしようもない者

あのようないいから

他

合はせられるけるをも知らずして、月冴えてもの静かなるに、夜うちふけ

になつたことをこの児は知らない

清らかに澄んで

縁側

て縁に立ち出でて、手水²使ふとて、詠じて云はく、

A 手にむすぶ水に宿れる月かげのあるかなきかの世にもすむかな

手にすくった水

月の姿

はかない

僧都これを聞きて、折節といひ、歌の体といひ、心肝に染みてあはれ

表現

心に深くしみて感動したので

なりければ、歌は道心のしるべにもなりぬべきものなりとて、この児を

信仰の手引きとなるにちがいない

お詫し

僧都これに立派に詠じて、手水³使ふとて、詠じて云はく、

B 手にむすぶ水に宿れる月かげのあるかなきかの世にもすむかな

手にすくった水

月の姿

はかない

僧都これを聞きて、折節といひ、歌の体といひ、心肝に染みてあはれ

表現

心に深くしみて感動したので

なりければ、歌は道心のしるべにもなりぬべきものなりとて、この児を

信仰の手引きとなるにちがいない

お詫し

僧都これを聞きて、手水⁴使ふとて、詠じて云はく、

C 手にむすぶ水に宿れる月かげのあるかなきかの世にもすむかな

手にすくった水

月の姿

はかない

僧都これを聞きて、手水⁴使ふとて、詠じて云はく、

D 手にむすぶ水に宿れる月かげのあるかなきかの世にもすむかな

手にすくった水

月の姿

はかない

僧都これを聞きて、手水⁴使ふとて、詠じて云はく、

E 手にむすぶ水に宿れる月かげのあるかなきかの世にもすむかな

手にすくった水

月の姿

はかない

僧都これを聞きて、手水⁴使ふとて、詠じて云はく、

F 手にむすぶ水に宿れる月かげのあるかなきかの世にもすむかな

手にすくった水

月の姿

はかない

僧都これを聞きて、手水⁴使ふとて、詠じて云はく、

G 手にむすぶ水に宿れる月かげのあるかなきかの世にもすむかな

手にすくった水

月の姿

はかない

僧都これを聞きて、手水⁴使ふとて、詠じて云はく、

H 手にむすぶ水に宿れる月かげのあるかなきかの世にもすむかな

手にすくった水

月の姿

はかない

僧都これを聞きて、手水⁴使ふとて、詠じて云はく、

I 手にむすぶ水に宿れる月かげのあるかなきかの世にもすむかな

手にすくった水

月の姿

はかない

僧都これを聞きて、手水⁴使ふとて、詠じて云はく、

J 手にむすぶ水に宿れる月かげのあるかなきかの世にもすむかな

手にすくった水

月の姿

はかない

僧都これを聞きて、手水⁴使ふとて、詠じて云はく、

K 手にむすぶ水に宿れる月かげのあるかなきかの世にもすむかな

手にすくった水

月の姿

はかない

僧都これを聞きて、手水⁴使ふとて、詠じて云はく、

L 手にむすぶ水に宿れる月かげのあるかなきかの世にもすむかな

手にすくった水

月の姿

はかない

僧都これを聞きて、手水⁴使ふとて、詠じて云はく、

M 手にむすぶ水に宿れる月かげのあるかなきかの世にもすむかな

手にすくった水

月の姿

はかない

僧都これを聞きて、手水⁴使ふとて、詠じて云はく、

N 手にむすぶ水に宿れる月かげのあるかなきかの世にもすむかな

手にすくった水

月の姿

はかない

(注2) 狂言綺語 || 道理に外れた言葉や飾り立てた言葉。詩歌の類いを指している。

(注3) 児 || 学問を修めたり行儀作法を身に付けたりするために寺院に預けられた少年。

(注4) 手水 || 手や顔を洗い清めるための水。

(「沙石集」による。)

四 中学生の西山さんは、新聞で投書を読み、その内容について自分の

考えを書いて同じ新聞に投書することにしました。次の【投書】は、西山さんが読んだ投書、【資料】は、西山さんが投書を書くために準備したもので、【ノート】は、西山さんがこれまでに読んだ古典作品の中でも、印象に残った一節とその現代語訳を書き留めておいたものです。これらを読んで、あとの「問い合わせ」に答えなさい。

【投書】

平成二十九年十一月一日付け

中学生 13歳

古典を学ぶ意義とは?

私は、国語の授業が好きです。ただ、この頃疑問に思うことがあります。それは、古典を学ぶ意義は何かということです。

例えば、外国語は外国人とコミュニケーションをする上で役に立ちますが、今は使わない昔の言葉は、役に立つと思えません。また、気持ちや考えを読み取るのであれば、現代の社会や生活とは大きく異なる昔の話でなくともよいと思います。

中学生になり、扱われる古典作品の内容を難しく感じるようになりました。高校では一層高度になると聞いています。友達に「何のために古典を学ぶのだろうか」と聞くと、「入試のため」という答えが返つてきました。しかし、それでは納得できません。いつたい古典を学ぶ意義は何なのでしょうか。

【資料】

古典とは何か。

風土と歴史に根ざしながら、時と所をこえてひろく享受されるもの。人間の叡智の結晶であり、人間性洞察の力とその表現の美しさによって、私たちの想いを深くし、心を豊かにしてくれるもの。いまも私たちの魂をゆさぶり、「人間とは何か、生きるとは何か」との永遠の問いに立ち返らせるもの。それが古典である。

(『古典の日』宣言)による。

(注) 叡智 || 物事を深く見通す優れた知恵。

【ノート】

「論語」より

曾子曰く、「吾日に三たび吾が身を省みる。人の為に謀りて忠ならざるか、朋友と交はりて信ならざるか、習はざるを伝ふるか。」と。

【現代語訳】

曾先生はおっしゃった。「私は毎日何度も我が身について反省する。人の相談にのつたときに、真心を尽くさなかつたことはないか。友人と交際して信義に背くことはなかつたか。まだ自分が習熟していないことを、口先だけで人に教えたのではないか。」と。

〔古今和歌集〕より

つらゆき

ことならば咲かずやはあらぬ桜花見る我さへに静心なし

（現代語訳）

紀貫之

どうせ散つてしまふのなら、いつそ咲かないでいることはできないか。桜の花よ。だいたい桜は、せっかく咲いても慌ただしく散つてしまうが、その様子を見ている私まで落ち着かない気持ちにさせるものだ。

(注) 曾子 || 孔子の弟子。

【問い合わせ】 西山さんは、「古典を学ぶ意義」はあると考え、「古典を学ぶ意義」について、資料とノートを基に、投書の筆者の疑問に答える文章を書くことにしました。あなたならどのように書きますか。次の条件1～3に従つて書きなさい。

条件1 【資料】の内容を踏まえて書くこと。

条件2 【ノート】の中のどちらか一つの古典作品を例として取り上げ、【ノート】に書かれている一節の内容を踏まえて書くこと。

条件3 投書の題は書かず、解答用紙に示している書き出しに続くように書き、内容に応じて段落を変え、二百五十字以内で書くこと。ただし、解答用紙に示している書き出しの部分は字数に含まないものとする。

※ 左の枠は、下書きに使つても構いません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

十一月一日付け本紙「古典を学ぶ意義とは?」について、私なりの考えを書こうと思います。
私の考える「古典を学ぶ意義」は、

十一月一日付け本紙「古典を学ぶ意義とは?」について、私なりの考えを書こうと思います。